

静岡文化芸術大学 芸術文化学科 ディプロマ・ポリシー

学習・教育目標	対応するディプロマ・ポリシー（芸術文化学科）	
知識・理解	多様な芸術と文化に関する専門的な知識を体系的に修得し、時代や地域によって芸術観や文化観がどのように形成されたかを考えることができる。	DP1-A
	社会科学の視点から、芸術と文化をめぐる様々な制度・政策や国・自治体・企業等による支援、そして芸術団体等の経営について理解し、批判的に評価することができる。	DP1-B
汎用的技能	公演や展示、プロジェクトなどの企画・運営を実践するために必要な基礎的能力を身につけている。	DP2-A
	社会におけるさまざまな事象の課題を発見し、その課題についての確に情報を収集し、分析する能力を身につけている。	DP2-B
態度・志向性	芸術文化を振興し、地域を活性化するなど創造性をもって社会に貢献するという信念を抱き、社会の多様な人々に共感する力、実践活動に必要とされる柔軟な発想力と行動力を身につけている。	DP3
総合的な学習経験と創造的思考力	多角的な視野に立って、芸術と文化、それを支える社会システムの双方を理解し、多様な分野において芸術のもつ力を活かして未来を構想する力を身につけている。	DP4

カリキュラムマップ（芸術文化学科科目）

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連					
大	中	小			必修	選択		DP1-A	DP1-B	DP2-A	DP2-B	DP3	DP4
芸術文化学科	学科基礎	—	芸術文化入門	1後	2		芸術文化学科の学生として必要な学びの基本を示すための科目である。文化、芸術を専攻研究する学生として、また将来の事業企画者・支援者・政策立案者として、文化、芸術に能動的にかかわっていく上での基盤となる理解と責任感を醸成することを狙いとする。学科専任教員複数名によるオムニバス形式で講義を行い、文化、芸術に多様なジャンルがあることを確認するだけでなく、それらを大学での学びの中で扱う方法も多様であることを認識する。	○	○	—	—	—	—
芸術文化学科	学科基礎	—	芸術表現A	1前	2		実際に第一線で活躍する芸術家のもとで、その訓練や制作の場に立ち会い、芸術従事者の姿勢、心構えに触れるとともに芸術の深遠さとそれに携わることの厳しさを体感することが狙いである。将来事業企画者、支援者、政策立案者として文化、芸術にかかわる者になることを想定し、そのような者として不可欠な、高度に専門的な芸術表現の現場を体験することによって、芸術の本質について考える。芸術表現Bとあわせ複数の領域を用意し、うち1枠を必修とする。	○	—	○	—	—	—
芸術文化学科	学科基礎	—	芸術表現B	1後	2		実際に第一線で活躍する芸術家のもとで、その訓練や制作の場に立ち会い、芸術従事者の姿勢、心構えに触れるとともに芸術の深遠さとそれに携わることの厳しさを体感することが狙いである。将来事業企画者、支援者、政策立案者として文化、芸術にかかわる者になることを想定し、そのような者として不可欠な、高度に専門的な芸術表現の現場を体験することによって、芸術の本質について考える。芸術表現Aとあわせ複数の領域を用意し、うち1枠を必修とする。	○	—	○	—	—	—
芸術文化学科	学科基礎	—	芸術文化基礎A	2前	2		ゼミに所属する前の学科学生を対象に、大学生の読む・書く能力を前提として、4クラスに分かれて、文化、芸術に関するさまざまな専門領域での研究手法の基礎を学ぶ。専門領域での基礎的文獻を読解し、検討することによって専門領域についての知識を得るとともに、それを整理し、まとめるなどの作業をすることによって、読む・書く能力をさらに高め、考察力と分析力を養うことを目指す。基礎A・B・C・D各クラス定員10人程度を設定し、うち2クラスの受講を義務づける。	—	—	—	○	△	△
芸術文化学科	学科基礎	—	芸術文化基礎B	2前	2		ゼミに所属する前の学科学生を対象に、大学生の読む・書く能力を前提として、4クラスに分かれて、文化、芸術に関するさまざまな専門領域での研究手法の基礎を学ぶ。専門領域での基礎的文獻を読解し、検討することによって専門領域についての知識を得るとともに、それを整理し、まとめるなどの作業をすることによって、読む・書く能力をさらに高め、考察力と分析力を養うことを目指す。基礎A・B・C・D各クラス定員10人程度を設定し、うち2クラスの受講を義務づける。	—	—	—	○	△	△
芸術文化学科	学科基礎	—	芸術文化基礎C	2後	2		ゼミに所属する前の学科学生を対象に、大学生の読む・書く能力を前提として、4クラスに分かれて、文化、芸術に関するさまざまな専門領域での研究手法の基礎を学ぶ。専門領域での基礎的文獻を読解し、検討することによって専門領域についての知識を得るとともに、それを整理し、まとめるなどの作業をすることによって、読む・書く能力をさらに高め、考察力と分析力を養うことを目指す。基礎A・B・C・D各クラス定員10人程度を設定し、うち2クラスの受講を義務づける。	—	—	—	○	△	△
芸術文化学科	学科基礎	—	芸術文化基礎D	2後	2		ゼミに所属する前の学科学生を対象に、大学生の読む・書く能力を前提として、4クラスに分かれて、文化、芸術に関するさまざまな専門領域での研究手法の基礎を学ぶ。専門領域での基礎的文獻を読解し、検討することによって専門領域についての知識を得るとともに、それを整理し、まとめるなどの作業をすることによって、読む・書く能力をさらに高め、考察力と分析力を養うことを目指す。基礎A・B・C・D各クラス定員10人程度を設定し、うち2クラスの受講を義務づける。	—	—	—	○	△	△
芸術文化学科	学科基礎	—	芸術文化特講	2後	2		一つのテーマを設定し、多様な専門性を持つ学科専任教員が、各自の専門領域に関連する様々な視点から当該テーマをめぐって行うオムニバス方式の連続講義とする。学科で一定の学習を積み重ねた上で、ゼミ選択を控えた学生を対象とする。受講者は、同一テーマへの多角的なアプローチの可能性を体得すると同時に、それらの異なったアプローチが互いに繋がりがりを持つということを理解することが狙いである。学生は、この授業で示される多様な専門領域から、自分が関心のある領域への理解を深め、次の段階に進む助けとする。	△	△	—	—	○	—

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連					
大	中	小			必修	選択		DP1-A	DP1-B	DP2-A	DP2-B	DP3	DP4
芸術文化学科	政策とマネジメント	—	芸術文化政策の国際比較	2前		2	芸術支援に関わる政策分野を中心に、日米あるいは日欧等の文化政策について時代背景等の歴史的視点を踏まえて比較検討することにより、政策的な変遷や、政策手段の多様なあり方についての理解を深める。特に、政策分析に不可欠な、市場と政府、そして非営利経済の関係についての視点を養うとともに、各種の補助金制度、租税優遇措置、顕彰制度や官民協働等、具体的な政策手段の特徴や、法や計画策定等の意義や限界等について検討する。	△	○	-	-	△	-
芸術文化学科	政策とマネジメント	—	文化財保護政策	2前		2	我が国の文化財保護の法的・制度的な枠組みについて基礎的な知識を身につけた上で、有形および無形の文化財保護に関する様々な事例研究を通して政策の背景や課題について分析する。特に1950年に制定された文化財保護法の意義や特徴と、その実施体制が我が国の文化財保護政策および文化政策の他領域に与えた影響などについての理解を深める。さらに、近年の注目すべき動きとして、文化財と地域社会・まちづくりとの関連について検討する。	-	○	-	○	-	-
芸術文化学科	政策とマネジメント	—	現代社会と芸術文化	2前		2	医療や福祉、更生や教育の手段としての活用や、様々なマイノリティに関する社会包摂の手段として注目されるなど、芸術文化は現代社会における様々な問題と密接に関わるようになってきている。情報化、少子高齢化、国際化をはじめとした現代社会における様々な環境変化と芸術文化の関係について、国内外の様々な事例を通して多面的な視点から学ぶことにより、現代社会におけるアートマネジメントや文化政策のあり方を考えるための視野を広げる。	-	-	-	○	○	-
芸術文化学科	政策とマネジメント	—	芸術文化政策の理論	2後		2	法学、政治学、経済学、社会学等、社会科学の主要な領域の中から1つあるいは複数の分野を取り上げ、それぞれの学問分野における芸術文化政策についての研究の系譜を概観するとともに、それぞれの理論体系の特徴を学ぶ。さらに、これらの理論を実際に我が国および諸外国において行われている国や地方公共団体の芸術文化政策の事例にあてはめて分析を行う。これらを通じて、現実の芸術文化政策を理論的に分析するための基礎を身につける。	-	○	-	○	-	-
芸術文化学科	政策とマネジメント	—	文化施設の管理と運営	2後		2	劇場・音楽堂等をはじめとした文化施設が、市民や地域社会に対して果たすべき使命についての認識を深めるとともに、こうした施設の管理と運営のあり方について実践的に学ぶ。特に自治体が設立した公立施設においては、2003年に導入された指定管理者制度の特徴や課題等について、事例研究を取り入れながら検討を行うとともに、2012年に制定された劇場・音楽堂等の活性化に関する法律の意義や特徴を踏まえつつ、今後の我が国における文化施設運営のあり方についての考察を深める。	-	○	-	-	○	-
芸術文化学科	政策とマネジメント	—	アートマネジメントA	2後		2	公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論として、非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につける。特に、公演、展覧会、教育プログラムをはじめとしたアウトプットを鑑賞者等に届けるためのマーケティングや、非営利組織が持続的に活動を続けるために不可欠な資源を獲得するためのファンディングなどを中心に学ぶ。	-	○	-	○	-	-
芸術文化学科	政策とマネジメント	—	アートマネジメントB	2前		2	公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論として、非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につける。特に、非営利組織が営利組織とは異なり、資金等を中心とした金銭的インセンティブが働きにくい組織であるという特徴を踏まえた上で、組織や組織間関係、人的資源管理、戦略計画などを中心に学ぶ。	-	○	-	○	-	-
芸術文化学科	政策とマネジメント	—	アートマネジメントC	2後		2	現代社会における芸術文化の活動の根幹である「働くこと」に関する理論的、制度的な理解を深める。具体的には、文化施設やフェスティバル等、芸術文化の現場における雇用問題に関して、正規雇用、非正規雇用の違い、派遣労働、労務管理等に関する制度や現状の課題について理解する。さらに、芸術文化の分野で広くみられる、雇用によらない働き方に関して、個人事業主（フリーランス）の働き方や、ボランティアをめぐる諸制度や課題について学ぶ。	-	○	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	文化と芸術A	1後		2	文化、芸術の多様な展開について、革新性の視点から諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることについて考える。文化、芸術についての学問的理解の上で欠かせない歴史的展開や最新の状況、社会や時代の要請に応じた現象も取り扱うこととする。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	文化と芸術B	2前		2	文化、芸術の多様な展開について、東洋と西洋の視点から諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることについて考える。文化、芸術についての学問的理解の上で欠かせない歴史的展開や最新の状況、社会や時代の要請に応じた現象も取り扱うこととする。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	文化と芸術C	1後		2	文化、芸術の多様な展開について、視覚芸術と実演芸術の視点から諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることについて考える。文化、芸術についての学問的理解の上で欠かせない歴史的展開や最新の状況、社会や時代の要請に応じた現象も取り扱うこととする。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	文化と芸術D	2後		2	文化、芸術の多様な展開について、理論と実際の視点から諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることについて考える。文化、芸術についての学問的理解の上で欠かせない歴史的展開や最新の状況、社会や時代の要請に応じた現象も取り扱うこととする。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	現代芸術論A	2前		2	文化・芸術を考える上で無視することができない、とりわけ現代に特徴的な事柄、現象を革新性の視点から取り上げ、その性質や課題について考察することを狙いとする。また、このような現代的課題に対する対処法とはどのようなものかについて考える。これらの現代文化、現代芸術諸領域の研究手法、社会や時代の要請に応じた現象についても最新の情報を交えながら概観する。	○	-	-	○	-	-

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連					
大	中	小			必修	選択		DP1-A	DP1-B	DP2-A	DP2-B	DP3	DP4
芸術文化学科	文化と芸術	—	現代芸術論B	2前		2	文化・芸術を考える上で無視することができない、とりわけ現代に特徴的な事柄、現象を理論と実際の視点から取り上げ、その性質や課題について考察することを狙いとす。また、このような現代的課題に対する対処法とはどのようなものかについて考える。これらの現代文化、現代芸術諸領域の研究手法、社会や時代の要請に応じた現象についても最新の情報を交えながら概観する。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	現代芸術論C	2後		2	文化・芸術を考える上で無視することができない、とりわけ現代に特徴的な事柄、現象を継承と発展の視点から取り上げ、その性質や課題について考察することを狙いとす。また、このような現代的課題に対する対処法とはどのようなものかについて考える。これらの現代文化、現代芸術諸領域の研究手法、社会や時代の要請に応じた現象についても最新の情報を交えながら概観する。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	芸術特論A	2前		2	文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などを革新性の視点から取り上げ、考察する。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域、社会や時代の要請に応じた領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	芸術特論B	2前		2	文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などを視覚芸術と実演芸術の視点から取り上げ、考察する。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域、社会や時代の要請に応じた領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	芸術特論C	2前		2	文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などを東洋と西洋の視点から取り上げ、考察する。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域、社会や時代の要請に応じた領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	芸術特論D	2後		2	文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などを理論と実際の視点から取り上げ、考察する。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域、社会や時代の要請に応じた領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	音楽史Ⅰ	1前		2	音楽は世界のあらゆる国や地域に遍在しているが、音楽史では、特定の国や地域(例えば、西洋、日本、アジア、アフリカ等のいずれか)における音楽の歴史を概観したのち、その地における音楽(歌、器楽、音楽劇、宗教音楽、民俗音楽、大衆音楽等)について音楽学的な観点から考察する。音楽史Ⅰは、主に古代から近世を対象とし、必要に応じて政治、制度、思想、その他の芸術領域との関係に目を向け、社会における音楽の営みとその歴史的展開についても言及する。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	音楽史Ⅱ	1後		2	音楽は世界のあらゆる国や地域に遍在しているが、音楽史では、特定の国や地域(例えば、西洋、日本、アジア、アフリカ等のいずれか)における音楽の歴史を概観したのち、その地における音楽(歌、器楽、音楽劇、宗教音楽、民俗音楽、大衆音楽等)について音楽学的な観点から考察する。音楽史Ⅱは、主に近現代を対象とし、必要に応じて政治、制度、思想、その他の芸術領域との関係に目を向け、社会における音楽の営みとその歴史的展開についても言及する。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	演劇史Ⅰ	1前		2	主としてヨーロッパ演劇の歴史を学ぶ。まず、西洋の演劇が本格的に開花した古代ギリシア・ローマ時代から中世・ルネサンス、さらにはシェイクスピア、モリエールらが活躍した黄金時代、そして18世紀啓蒙主義時代に至る演劇の流れを、具体的な作品を見ながら概観する。次いで、欧米を中心に、19世紀から現代に至る演劇の基本的な潮流をたどる。ロマン主義の演劇、近代のリアリズム演劇、そして20世紀の前衛演劇から最先端の演劇までの展開を、映像資料を用いた作品鑑賞を通して理解する。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	演劇史Ⅱ	1後		2	主として日本の芸能と演劇の歴史を学ぶ。古典から現代に至るまでの日本の芸能・演劇の基礎的な知識を身につけることで、日本文化の歴史と、現在のパフォーマンスアートに対する理解を深める。また、社会の変化に伴って、芸能・演劇がどのように変容、発展してきたのかを学ぶことで、社会と芸術の連続性を見出す力を養う。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	美術史(西洋)Ⅰ	1前		2	先史時代から近世ヨーロッパの美術の歴史を学ぶ。また美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。前半は西洋美術の基礎ともいえる古代ギリシア・ローマ時代からキリスト教美術の誕生と発展を経て、ルネサンスに至る軌跡を、後半ではバロック、ロココという近世近代におけるヨーロッパ圏の文化交流を、さまざまな作品を紹介しながらたどり、それらの作品に固有の様式的特性を見極め、さらに様式分類や図像分析といった美術史研究の基礎的な方法論も探求する。	○	-	○	-	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	美術史(西洋)Ⅱ	1後		2	美術史(西洋)Ⅰで学んだ知識を基礎として、フランス革命以降の近代ヨーロッパから20世紀前半の美術の歴史を学ぶ。また、美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。ルネサンス時代に起こった社会の大きな変化に伴う芸術上の大変革からバロック、ロココ時代を経て、19世紀近代、さらには20世紀に至るまでの社会の変遷と美術史の流れを、各時代、地域、作家等による様式の違いや影響関係を確認しながら歴史を俯瞰する。	○	-	○	-	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	美術史(日本・東洋)Ⅰ	1前		2	古代から中世に至る日本美術の主要な作品の画像を見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・朝鮮半島の美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何かを検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。	○	-	○	-	-	-

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連					
大	中	小			必修	選択		DP1-A	DP1-B	DP2-A	DP2-B	DP3	DP4
芸術文化学科	文化と芸術	—	美術史(日本・東洋)Ⅱ	1後		2	「美術史(日本・東洋)Ⅰ」に引き続き、中世から近世に至る日本美術の主要な作品の画像を見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・ヨーロッパの美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何か検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。	○	-	○	-	-	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	鑑賞と批評Ⅰ	3前		1	美術について学ぶには、まず実際の作品を多く見て、それをじっくり観察し、作品について熟考することが不可欠である。本科目では実際に展覧会等で作品を観察することで、さまざまな美術作品の美術史的な見方、分析方法を身につける。加えて、それを効果的に記述し、伝える力を、レポートを作成することにより習得する。美術のジャンルを限定するのではなく、多くの作品に触れることで、幅広く作品を見る力を身につけるとともに、美術史の全般的な知識を広げ、展覧会の傾向や特徴を体験し知ることを目指す。	△	-	○	-	△	-
芸術文化学科	文化と芸術	—	鑑賞と批評Ⅱ	3後		1	鑑賞と批評Ⅰと同様に、実際に展覧会等で作品を観察することで、美術作品の美術史的な見方、分析方法を身につける。加えて、それを効果的に記述し、伝える力を、レポートを作成することにより習得する。Ⅰで習得した方法論をさらに展開させることを目指す。作品について正確に記述できる力を獲得するだけでなく、文献等で得た情報と作品を照應させたり、他の作品と比較することによって、より立体的に美術作品を捉える能力を得ることを目指す。	△	-	○	-	△	-
芸術文化学科	芸術運営の実践	—	劇場プロデュース論	2後		2	音楽や演劇、バレエ、ダンス、オペラ、ミュージカルなど、パフォーマンスの領域は多岐にわたるが、そのアートマネジメントの根幹をなす劇場プロデュースの役割について考察する。劇場において、どの時期にどのような公演を行うかを決定する企画立案、その前提となる事前の市場調査、劇場運営の経済的条件と地域の観客・聴衆のニーズとの調整など、舞台公演を実施するにはさまざまな課題を解決しなければならない。これらの諸問題について、できるだけ具体的な事例に即しながら考察を進めていく。	-	-	○	-	△	△
芸術文化学科	芸術運営の実践	—	舞台運営論	3前		2	舞台上の企画立案や文化施設の運営に携わるには、劇場の機能、社会的役割、あるいは劇場を取り巻く環境について十分に理解しておく必要がある。そのための基礎的な理論・知識を習得するとともに、創作現場の現状について実際的に学ぶ。さらに、劇場以外の上演を成立させる諸条件について総合的に学習することで、舞台運営に関する広い視座を養う。	-	-	○	-	△	△
芸術文化学科	芸術運営の実践	—	空間演出総合計画	3前		2	本科目は、空間デザイン系科目の集大成の位置付けにあり、現代社会の複合的デザインの潮流に適應できるよう、現実空間から仮想空間まで多岐に亘る空間デザインを多面的・網羅的に取り扱う。社会における多様な空間デザインの最新動向を学び、また、各種空間デザインのケース分析を通じて実社会においても有用となる知識を習得する。	-	-	○	-	-	○
芸術文化学科	芸術運営の実践	—	展示プロデュース論	3後		2	博物館のみならず様々な展覧会における管理・運営上の問題点を踏まえながら、展示物そのものの視点から鑑賞者にとって望ましい展示とはいかなるものかについて考える。コレクション等の常設展、他館から借用するもので構成する特別展等の様々な展覧会における展示の特性、あるいは展示空間の問題について事例と実践から、効果的な展示手法を習得する。	△	-	○	-	△	-
芸術文化学科	芸術運営の実践	—	保存と修復	3後		2	文化財についての基礎的な知識と、文化財の保存環境や保存方法について多角的に学ぶ。また、対象とする文化財の修復に欠かせない素材の基本的技術について学ぶとともに、日本の伝統技法についての知識も深める。また、歴史的建造物の修復の実態なども紹介する。近年特に重要になっている保存や修復の根本的問題についても、これらに関する概念と社会との関係について考察することによって、より望ましい保存のかたちを考える。	○	-	△	△	-	-
芸術文化学科	芸術運営の実践	—	舞台技術論	3後		2	舞台上の企画立案や文化施設の運営に携わるには、劇場や舞台空間の技術について十分に理解しておく必要がある。そのための劇場に関する基礎的な知識を習得するとともに、実際に劇場という機構に備わる技術を体験的に学習し、劇場を維持管理し、作品を舞台上で上演する上で必要となる基礎的な技術を総合的に学ぶ。さらに、野外劇場や円形劇場などの舞台空間で用いられる特殊な技術についても一定の知識を得ることで、舞台上演について理解を深める。	○	-	○	-	-	-
芸術文化学科	芸術運営の実践	—	デザイン思考	3後		2	ユーザー視点を軸にアイデアを導き出すデザインプロセスにおける古典的な思考方法である。建築やプロダクト、サービスと多岐にわたるデザイン領域で活用され、現代の各分野における専門的な思考法の原点とも言われる。授業では「デザイン思考」を用いた様々なデザイン事例の紹介や分析を行い、デザインプロセスにおける基本的な思考法として理解する事を目指す。	○	-	-	○	-	-
芸術文化学科	卒業研究	—	芸術文化演習ⅠA (文明観光学演習Ⅰ)	3前		1	学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返す。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。	-	-	-	○	-	○
芸術文化学科	卒業研究	—	芸術文化演習ⅠB (文明観光学演習Ⅰ)	3前		1	学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返す。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。	-	-	-	○	-	○
芸術文化学科	卒業研究	—	芸術文化演習ⅡA (文明観光学演習Ⅱ)	3後		1	学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返す。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。	-	-	-	○	-	○

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連					
大	中	小			必修	選択		DP1-A	DP1-B	DP2-A	DP2-B	DP3	DP4
芸術文化学科	卒業研究	—	芸術文化演習ⅡB (文明観光学演習Ⅱ)	3後		1	学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返す。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。	-	-	-	○	-	○
芸術文化学科	卒業研究	—	芸術文化演習Ⅲ(文明観光学演習Ⅲ)	4前		1	各ゼミ担当教員の指導のもと、卒業論文執筆と関連させながら、学生各自が設定した個別のテーマに従って、それぞれの研究を進める。ここでは、演習Ⅰにおいて養われた文章を書く力と、同じゼミに所属する学生との発表と議論によって培われた構想力、分析力をさらに確かなものにするために、研究と議論を重ねる。また、これらの発表や報告によって、お互いのテーマについて検討を重ねたものを各自の論文執筆に結びつけることを目指す。	-	-	-	○	-	○
芸術文化学科	卒業研究	—	芸術文化演習Ⅳ(文明観光学演習Ⅳ)	4後		1	各ゼミ担当教員の指導のもと、卒業論文執筆と関連させながら、学生各自が設定した個別のテーマに従って、それぞれの研究を進める。ここでは、演習Ⅰにおいて養われた文章を書く力と、同じゼミに所属する学生との発表と議論によって培われた構想力、分析力をさらに確かなものにするために、研究と議論を重ねる。また、これらの発表や報告によって、お互いのテーマについて検討を重ねたものを各自の論文執筆に結びつけることを目指す。	-	-	-	○	-	○
芸術文化学科	卒業研究	—	卒業論文(卒業論文(文明観光学))	4後		4	各ゼミの担当教員(指導教員)の指導に基づいて、卒業論文を作成する。卒業論文では、これまでに演習によって獲得した様々な知識、情報の活用の方法、それらを自らの思考と照らし合わせながらその思考をさらに新たなものとして構築する方法などを駆使し、自らの考えを論理的な文章へとまとめていく。文献資料を収集し、それらを読解、分析し、これに基づいて理論を立てる作業を担当教員の指導とともに繰り返しつつ、論文の完成を目指す。	-	-	-	○	-	○